

甘く締まったキャベツづくり

栽培のポイント

●活力のある外葉を育てる！

大きい球に育てるには、初期から旺盛な生育をさせることが必要です。元肥の窒素・カリを十分に与えて、リン酸(MリンPK)で一枚一枚の葉を充実させるのがコツ。MリンPKは、葉を厚くして、病気にかかりにくくします。

●キャベツの甘みは芯と葉脈で決まる！

キャベツは80枚程度の葉を作り、結球します。茎(芯)はやや短め(4~5cm)にできると締まりの良い球になります。良い葉は光合成産物(糖分)を葉脈にも蓄積させ、葉脈のしっかりしたキャベツは、養水分を葉先へ送ることや、新しい葉を作る能力も高いです。キャベツ栽培で頻繁に発生する、カルシウム欠乏も少なくなります。



春まき、夏まきキャベツの施肥提案 (1a=30坪)

作型	資材名	元肥	追肥① (生育初期の追肥)	追肥② (最盛期以降の追肥)
春まき	MリンPKマグ	3 kg	2 kg	2 kg
	バクヤーゼK	15 kg	—	—
	NK化成	9 kg	3~4 kg	2~3 kg
夏まき	MリンPKマグ	4 kg	2 kg	2 kg
	バクヤーゼK	15 kg	—	—
	NK化成	8 kg	3~4 kg	3~4 kg
秋まき	MリンPKマグ	3 kg	2 kg	2 kg
	バクヤーゼK	15 kg	—	—
	NK化成	9 kg	3~4 kg	2~3 kg

※元肥のバクヤーゼKは定植10日前までに施肥する

根コブ病対策の考え方

石灰資材で土壌pHをアルカリ側にすることが対策の一つと言われているが、第一に圃場の排水性を良くすることと、有効菌が多く住める土壌環境の整備を検討すべき。そのためには良質堆肥とバクヤーゼKなどボカシ肥の継続利用が有効です。



外葉が立って受光体勢バッチリ